

社会・環境報告書 2018

社会との共存と  
地球環境との調和をめざして

2018

ダイジェスト版

# SIIグループ事業概要

## 会社概要

社名	セイコーインスツル株式会社(略称:SII)	年間売上高	(2017年度単独) 611億円
設立	1937年(昭和12年)9月7日		(2017年度連結) 1,090億円
資本金	97.56億円 (セイコーホールディングス株式会社 全額出資)	従業員数	(単独) 996名 2018年3月31日現在 (連結) 6,801名
決算期	3月(年1回)		



### 編集方針

- 本報告書はSIIグループのCSR活動をステークホルダーの皆様にお伝えするとともに、皆様からご意見をいただきCSR活動の改善につなげるツールと位置付けています。
- 本報告書に掲載していない詳細な情報や最新情報はホームページをご覧ください。  
<http://www.sii.co.jp/eco/>

### 報告対象範囲

- セイコーインスツル(株)の各事業所、営業所ならびに関係会社。
- \* 環境報告はISO14001認証取得拠点である国内9拠点、海外7拠点を中心に報告しています。  
各種データには基本的に2018年1月にSIIグループの連結対象から外れた半導体事業分を含んでいます。

### 報告対象期間

2017年度(2017年4月～2018年3月)

### ■お問い合わせ先

千葉県千葉市美浜区中瀬 1-8 〒261-8507

セイコーインスツル株式会社

環境経営推進部 TEL:043-211-1149 FAX:043-211-8019 ホームページ：<http://www.sii.co.jp/eco/>

# トップメッセージ

製造業として成長し、豊かな時の実現を目指します。



様々な社会的課題が顕在化するなかで、企業の果すべき責任はより強く求められています。ESG(環境・社会・ガバナンス)投資が注目されているとおり、もはや企業は利益を追求するだけではステークホルダーから選ばれない時代となりました。これまでの価値観を大きく変え、地球や社会と共存する目標を定め、それに向かって着実に行動する必要があります。

2017年、セイコーインスツル(SII)はこれからの環境経営を見据えた「環境ビジョン」を策定しました。これは、自然との共生、低炭素、循環型といった持続可能な社会を基本に「地球と人に豊かな時を」というSIIが目指す方向性を示したものです。「豊かな時」の実現とは、2015年に採択された国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成を推し進め、将来にわたりすべての人が満ち足りた幸せな暮らしができることです。それには、環境への負荷を抑えたものづくり、環境に配慮した製品、環境に貢献できる製品を創出していくことが最も重要な使命だと考えています。

SIIは2001年に「SIIグリーン商品ラベル制度」を導入して以来、数多くの環境配慮型製品・環境貢献製品を生み出してきました。しかし、環境法規制は世界でより厳しさを増し、お客様の環境ニーズも多様化しています。私たちは、こうした動きを機会と捉え、スピード感を持って取り組み、より環境性能の高い製品をいち早く提供していくことで、SDGsの目標の1つである「つくる責任」にも貢献していきます。

私は2018年4月に代表取締役社長に就任し、所信表明として「製造業(マニュファクチャラ)としての成長」を掲げました。SIIには先輩方が築き上げてきた技術や伝統がありますが維持するだけではそれらを成長させていくことは出来ません。成長には、SIIの強みである腕時計製造で培った「匠・小・省」を常に進化させていくことが必要です。そして進化すべき対象は、開発・製造だけでなく、マーケティング、営業、管理を含めた事業活動全体にわたります。サプライヤーの皆様にもご協力をいただきながら、一丸となって製造業として成長していきたいと考えています。

そして、私たちの目指す持続可能な社会である「豊かな時」の実現に向けて、社員と共に前進していく所存です。

セイコーインスツル株式会社  
代表取締役社長

小林 哲

# 理念とCI/企業行動憲章

SIIの理念「誠実、信頼、感謝」は、SIIと社会・ステークホルダーとのかかわり方の基本姿勢を示すものです。いつの時代にあっても社会やステークホルダーから必要とされ、信頼され続ける存在でありたいと考えています。SIIのCSRはこの理念の中に原点があり、持続可能な社会に期待される企業の姿としてその意志を表明したのが「SII企業行動憲章」です。

## 理念とコーポレートアイデンティティー

理念

誠実・信頼・感謝

コーポレート  
アイデンティティー

時を創り、時を活かし、時を豊かに

### ■ SII 企業行動憲章（2005年10月制定 2011年4月改定）

SIIグループは、経済社会の発展を担うとともに、いつの時代にあっても社会から必要とされ、信頼される存在でありたいと考えています。SIIグループ各社および社員は、高い倫理観を持って社会的責任を果たしながら、社会とステークホルダーへ新しい価値を提供し、持続可能な社会の創造を目指します。

#### <第1条> 価値の提供

技術の研鑽に努め、社会的に有用で、安全性と品質が高い製品やサービス、新しい価値を提供し、お客様の満足と信頼の向上を図ります。

#### <第2条> 公正・誠実な企業活動

- ・ 遵法はもとより、個人情報・顧客情報をはじめとする各種情報を正しく管理し、倫理的で公正、誠実な企業活動を行います。
- ・ 政治や行政との健全な関係を保ち、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力には、毅然とした態度で対応します。

#### <第3条> 人間尊重と人材育成

- ・ 社員の人格と多様性を尊重し、安全で働きやすい環境を実現します。成長を支援し、公正な評価と処遇に努めます。
- ・ 事業活動において関わる全ての人々の人権と人格を尊重します。
- ・ 高い倫理観を持ち、創造性と専門性に優れた人材の育成に努めます。

#### <第4条> 環境との調和

環境問題への取り組みは人類共通の課題と認識し、主体的に行動します。

#### <第5条> 社会との共存

- ・ 社会と対話し、適正な情報開示を行い、開かれた企業を目指します。
- ・ 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行います。
- ・ グローバルな事業活動においても、この憲章に従いながら、ステークホルダーの関心に配慮した経営を行い、各国の発展に貢献します。

#### <第6条> 経営トップのコミットメント

- ・ この憲章の精神を率先垂範の上、実効ある体制を確立し、SIIグループへの徹底を図るとともに、取引先にも促します。
- ・ この憲章に反する事態が生じたときは、自らが問題解決にあたり、説明責任を遂行の上、自らを含め厳正な処分を行います。

# CSR推進体制

SIIでは、2005年1月より全社のCSR活動を総括的に推進するためにCSR委員会を設置しています。委員会は代表取締役社長を委員長とし本社部門長を常任委員として構成しています。

CSR委員会では、コンプライアンスおよびリスクマネジメントを含むCSR活動の推進に伴う重要課題・案件を審議・決定し、その活動状況は定期的に経営層へ報告しています。

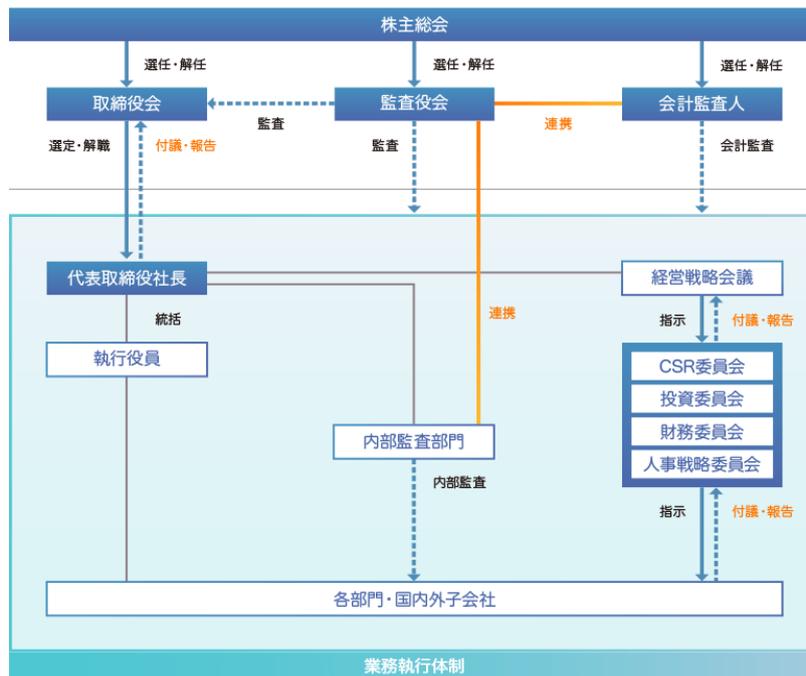
# コーポレート・ガバナンス

## コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

SIIは、ステークホルダーの信頼に添えていくため、企業価値の向上に向けて、経営の透明性・公正性を確保していくことが重要な経営課題の一つと認識し、コーポレート・ガバナンスの充実を図っています。

SIIでは、機関設計の形態として、監査役会設置会社を採用しています。

## コーポレート・ガバナンスの体制



## 内部統制システムの整備

SIIでは、取締役会で決議した「内部統制システムの基本方針」に基づき体制の整備を行い、取締役会に毎年運用状況を報告し、取締役会において運用状況を監督しています。

取締役会には、四半期毎にリスクマネジメント・コンプライアンスの活動状況、内部通報制度の運用状況を、また、内部監査の状況を年2回報告しています。内部監査は、内部監査部門が定期的に行うほか、管理部門が各種監査を実施しております。

金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制としては、親会社であるセイコーホールディングス株式会社の財務報告に係る内部統制の評価及び報告のため、連結子会社としてSIIグループの内部統制の経営者評価を行い、親会社に報告しています。

# コンプライアンス

## コンプライアンス体制

SIIではCSR委員会がコンプライアンス推進の機能を担い、コンプライアンス意識の普及啓発、問題事例発生時の対策検討などを行っています。

内部統制システムの基本方針に従い、国内外子会社におけるコンプライアンス体制の継続的な充実・向上を図っています。

海外子会社での体制整備に向けては、各海外子会社で選任したコンプライアンス推進員によりコンプライアンス体制充実のための諸活動を推進しています。

## 内部通報制度

コンプライアンスに反する行為を通報できるよう、社外弁護士を窓口とするSIIヘルプラインを設置しています。SIIヘルプラインは、社内だけでなく取引先の皆様からも、当社社員によるコンプライアンスに反する行為について情報提供いただけるようになっています。また、社内に相談窓口も設置しています。

なお、通報・相談の内容は定期的に経営トップおよび監査役に報告しています。

2017年度のSIIグループに関する通報・相談は5件でした。

# リスクマネジメント

## 全社リスクマネジメントの取り組み

SIIでは代表取締役社長を委員長とするCSR委員会を中心として全社的なリスクマネジメントを推進しています。

CSR委員会において、年度毎に潜在的なものを含めた各種リスクをあらかじめ集約し、管理するリスクを特定しています。リスクは影響度・発生頻度により評価し、当該リスク対策の進捗は四半期毎に確認しています。これらリスクのうち、年度の重要リスクについては、定期的に取締役会に報告しています。なお、2017年度はCSR委員会を6回開催しています。

事業上のリスクとなる状況等は、KPI(Key Performance Indicator:重要業績評価指標)を用いても管理され、定期的に経営会議体でモニタリングしています。

リスクのひとつである大規模災害の発生時には、交通遮断などから、一時的に帰宅が困難になることが予測されるため、水・食料、防寒シート、その他の防災備蓄を計画的に準備しています。

## 事業継続上のリスクマネジメント

SIIの製造拠点では、リスク発生時においても継続的な製品の供給を目指し、生産を中断させないリスクマネジメントを実施しています。

職場における作業改善から、設備投資を必要とする抜本的な改善まで、広範に取り組んでいます。

# 情報セキュリティ

## 情報セキュリティの考え方

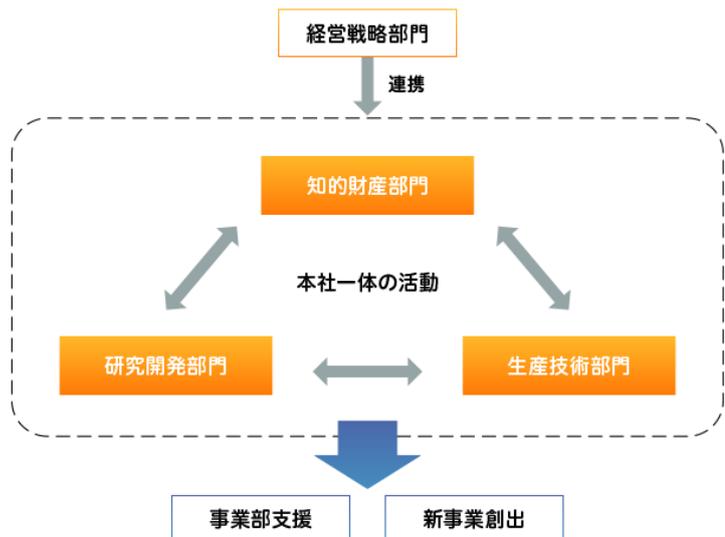
SIIは長年に渡って築き上げてきた「匠・小・省」技術を更に強化するために、情報通信技術（ICT）を高度に活用するようになりました。また、変化の激しいビジネス環境に対応するために、多くの情報システムを運用しています。一方、ICTが企業活動に深く浸透するのに伴い、情報漏洩、破壊、改竄などのICT活用に伴う脅威も広範囲に及ぶようになりました。

SIIは社内外に跨るネットワーク上を流通している情報や、コンピュータ及びネットワーク等の情報システムをグループの重要な情報資産として位置付け、これらを保全する情報セキュリティの確保は経営上の重要な責務であると認識しております。

# 知的財産活動

## 知的財産活動の基本方針と体制

SIIは、知的財産を事業活動上の重要資源と考え、開発などの成果の知的資産としての獲得とその活用に積極的に取り組んでいます。中・長期方針として「知的財産を尊重・重視する企業風土の醸成」を掲げ、知的財産部門、研究開発部門、生産技術部門が一体となり、経営戦略部門との連携のもと、新規事業創出、事業部支援、のための知的財産活動を行っています。



## 特許出願と特許査定状況

時計製造から始まる技術開発を基盤にしているSIIでは、その基本となるものは特許技術といえます。2017年度の国内特許出願件数は256件※1、海外特許出願件数は337件※1となりました。

国内特許査定は、2008年度より特許査定率の向上を図り、権利獲得し特許保有件数を大幅に増加させてきました。2018年3月時点の特許保有権数は1779件※2、海外特許査定は1536件※2です。事業の再編に伴い、全体的な特許出願及び査定件数は減少しているものの、継続している事業での出願・権利化活動は盛んに行われています。

※1 2018年1月に半導体事業はSIIグループの連結対象から外れました。国内、海外いずれの出願件数にも、第3四半期までの半導体事業における出願件数が含まれております。

※2 SIIグループの連結対象から外れた半導体事業分は含んでいません。

# 品質管理・製品安全

## 品質に対する考え方・品質基本方針

SIIはお客様にお届けする製品を、お客様の視点に立って、安全に、そして安心してお使いいただくために、全グループを挙げて幅広い品質保証活動を展開しています。

「お客様価値を創造するQ(Quality 品質)、C(Cost コスト)、D(Delivery 納期)、S(Safety&Service 製品安全及びサービス)を提供する」

これはSIIグループの品質基本方針です。品質のみならず、コストも納期もそして製品の安全性も含め、お客様にご満足いただきたい、というSIIの強い意志が込められています。

この品質方針を具体化するために、品質保証推進体制を構築し、以下を基本施策として取り組んでいます。

1. 品質、製品安全に関する国内外の技術法規制、各種規格の遵守
2. 開発・設計段階での品質、製品安全の作りこみのしくみづくりと人材育成
3. 品質、製品安全に関する情報の共有化

## 安全・安心を作りこむ品質保証

SIIの製品安全への基本的な考えは、「お客様へ安全な製品、サービスを確実に提供し、お客様の安心と信頼を高めること」です。継続的な製品安全教育を実施し、製品安全意識の向上と安全技術者を育成しています。

また、SIIグループ内に製品安全連絡会を設置し、全製品について定期的に製品安全・技術法規制点検を行い、製品の安全性と各国法規制への適合を検証しています。

万が一、SIIの製品による事故が発生した場合は、10分以内に経営トップへ報告し、同時に問題の早期解決と再発防止を図った上で、全社で情報の共有化と水平展開を進めています。

# お客様との対話

## お客様相談室

SIIお客様相談室では、お客様からのお問い合わせやご相談などに、迅速で正確、誠実な対応を心掛けています。さらに寄せられたご意見、ご要望、お困りの声は、関係する事業部と共有し、製品の品質改善など有効に活用させていただきます。

また、製品の取扱相談窓口や修理サポート・サプライ窓口の対応改善などを提言し、お客様にご満足いただけるアフターサービスの品質向上にも力を注いでいます。

## 安全・品質情報の開示

消費生活用製品安全法の施行に合わせ、SIIホームページに「製品に関する大切なお知らせ」アイコンを設置しています。SIIの製品の安全・事故情報及び重要品質情報を、速やかに且つ的確にお客様にお伝えし、お客様の不利益を最小限に食い止めるよう努めています。

# 社員に対する支援

## 人権の尊重

SIIではSII企業行動憲章の「第3条 人間尊重と人材育成」において、

- ・社員の人格と多様性を尊重し、安全で働きやすい環境を実現します。成長を支援し、公正な評価と処遇に努めます。
- ・事業活動において関わる全ての人々の人権と人格を尊重します。
- ・高い倫理観を持ち、創造性と専門性に優れた人材の育成に努めます。

と掲げ、グループ内での徹底を図っています。

現在、「人間尊重の基本ポリシー」について、海外の関連会社では各々の文化・慣習を反映しながら文書化を進めています。完成後は、この「人間尊重の基本ポリシー」のメッセージに込められた精神に基づいて、ステークホルダーに対して行動するように社員に徹底していきます。

2017年度は、人間尊重の精神が各規定にまで反映されていることを確認しました。2018年度は、社員への周知をルール化し、本社の人事部門が各拠点を回りながら、社員に確実に周知されていることを確認していきます。

## キャリア育成の支援

SIIでは自分のキャリアや評価に対して自ら責任を持つ自立・自己責任型社員の育成に注力しています。

「社内公募制度」、「フリーエージェント (FA) 制度」、「公募留学制度」などの制度を設け、社員個人の意欲を尊重し、キャリア選択の幅を広げる支援をしています。

## ワークライフバランスの実現

時間単位休暇制度については、2017年4月からは従来の2時間単位から1時間単位での運用に変更し、より柔軟な働き方が可能になりました。また、業務の生産性向上にも取り組み、週二回のNO残業DAY、月二回のNO会議DAYを全社的に設定しています。2019年度の短時間正社員制度の導入に向けて、2018年度は労使で検討する予定です。

### 【制度と利用実績】

制度	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
育児休職	25名	26名	33名	22名	18名
育児短時間勤務	29名	29名	35名	38名	27名
介護休職制度	0名	0名	0名	0名	0名
介護短時間勤務	0名	0名	0名	1名	1名

# 安全と健康

## 安全衛生の考え方

SIIでは、すべての社員が「安全で、安心して働ける」、すべての社員が「心身ともに健康である」ことが企業を支える根幹をなすものと考えています。

2008年に定めた「SIIグループ労働安全衛生方針」のもと、SIIグループすべての拠点において、工場災害及び労働災害の未然防止や、高いレベルの安全を追求し、快適な職場環境づくりに継続的に取り組んでいます。

# 公正で誠実な購買活動

## CSR 調達の考え方

SIIが社会的責任を果たしていくためにはサプライヤーの皆様の協力が不可欠です。SIIは購買方針の中でも「サプライヤーパートナーシップの強化」を掲げ、公正で誠実であることを基本にサプライヤーの皆様とともにCSRレベルの向上に努めています。

## 購買方針

1. ミニмумコストの追求
2. CSR
  - (1)コンプライアンスの強化
  - (2)グリーン購入の推進
  - (3)リスクマネジメント
3. サプライヤーパートナーシップの強化
4. 上記を含め購買機能改革・強化

## サプライヤー認定制度

SIIでは、サプライヤー認定基準を用いて公平な取引先選定を図るとともに、購買サプライチェーンでCSR体制を構築しています。

### ■ SII グループのサプライヤー認定基準

- ・誠実で公平な取引、人間尊重、社会との共存等を実行するための仕組み
- ・安定した経営状況
- ・環境管理体制
- ・品質、リスクマネジメント等の管理体制

2015年度にサプライヤー認定制度の見直しを行い、2016年度はCSR要求への対応や円滑な審査を定着させました。

# 紛争鉱物への対応

SIIは、コンゴ民主共和国および周辺諸国における人権侵害、不正に関わる組織の資金源とされる紛争鉱物問題を、国際的な重大問題と認識しています。

SIIでは、2012年3月に「SIIグループ紛争鉱物対応方針」を制定しました。

サプライヤーの皆様にもご協力をいただきながら、紛争鉱物の使用禁止を推進しています。

# 地域・社会とSII

## 学術・技術振興

### ■ 公益財団法人 新世代研究所

SIIは公益財団法人 新世代研究所(略称ATI)への寄付や業務支援を通じて、社会貢献としての学術振興に寄与しています。ATIは科学と人間との真の調和を探り、人類にとって豊かな新世代を切り拓く一つの試みとして、科学技術の分野において異なった発想を持つ人材による、専門領域を超えた研究の推進及び新世代を担う人材の育成を図るため、国際的な人材交流及び若手研究者助成や、国際フォーラムの開催等、人類社会発展の基盤となる学術の振興に寄与することを目的としています。

### ■ メカ時計セミナー

盛岡セイコー工業(株)では、一般の方々を対象に機械式腕時計の組立が体験できる「メカ時計セミナー」を開催しています。このセミナーは「機械式腕時計のファンを増やしたい」という思いを込めて、2007年より継続的に開催しているもので、これまで197名の方に参加いただいています。第11回目となった2017年度は16名の方に時計の分解から組立までを楽しんでいただきました。



## 環境社会貢献活動

### ■ 環境報告会

盛岡セイコー工業(株)は、2008年より「地域とはじめる環境報告会」を開催しています。10回目となった2017年度は、10月16日に開催し、地元の雫石町の住民の方々をはじめ、企業や行政から総勢16名の方に参加いただきました。会社概要の紹介や生物多様性保全を中心とした環境活動について報告し、その後は、屋外の緑地や廃液処理施設などの環境施設、続いて時計の製造工程を見学していただきました。



## 育成支援

SIIの国内外の各拠点では、工場見学の受け入れや地元の児童・生徒の就業体験に継続的に協力しています。

■ SIIの時計研修センター(幕張事業所)は千葉県内の児童8名の就業体験を受け入れました。「ゆめ・仕事ぴったり体験」と題して行われた就業体験は、児童たちが企業を訪問し、実際の業務を体験することで、仕事のやりがいや面白さ、仕事を通じて社会とつながりを持つことの大切さなどを学ぶことを目的としています。SIIでの受入は、今回で12回目となります。



■ シンガポールのSeiko Instruments Singapore Pte. Ltd.(以下SIS)では、シンガポールの日本人学校に通う中学生5名の職場体験学習を受け入れました。SISでの受け入れは、今回で8回目になります。生徒たちは2日間の学習日程の中で、受付業務と腕時計の組立てを体験しました。時計のメカニズムや機能に驚きながらも実りある経験をしてもらいました。



## 地域社会活動

### ■ 福祉活動

SIIの各拠点では地域に根ざした福祉活動を行っています。

■Seiko Instruments Singapore Pte. Ltd.では社員3名が老人ホームを訪問し、入居者の方々とコミュニケーションを図りました。また社員による募金を寄付しました。



■Instruments Technology (Johor) Sdn. Bhd では、安全衛生月間の活動の一環で地元の国立病院が主催する献血活動に、2013年から継続的に協力しています。2017年度も計187名の社員が協力しました。



■大野事業所では、近隣の小学校の「かけこみ110番」に協力しています。また、事業所の敷地を、幼稚園のバス停留場所として提供しています。

### ■ 地域清掃活動

SIIの国内外の各拠点では、地域社会への貢献や環境保全の一環として定期的に事業所周辺や沿道などの清掃活動を行っています。

#### 【国内拠点】

■SIIでは、新人研修の一環で地域清掃を実施しています。これは環境保全への意識向上や、企業人として地域社会に貢献することの大切さを学ぶことを目的としています。2017年度は41名の新入社員が、幕張事業所周辺から最寄り駅の新海浜幕張駅に至る広い範囲で清掃を行いました。

■秋田事業所では、毎年「共仕日・ゴミ拾いウォーキング」と題した活動を展開しています。「共仕日(ともしび)」とは、地域貢献のために「共に奉仕する日」という意味を込めて命名したものです。2017年度は、5月31日、終業後に社員約250名が参加して実施しました。この活動は、運動も兼ねながら地域美化にも貢献でき、また、社員同士のコミュニケーションの向上にもつながっています。

#### 【海外拠点】

■中国の広州精工技術有限公司(以下GSW)では、東莞市華陽湖公園で清掃活動を行いました。当日12月2日(日)は、総経理をはじめ社員有志132名とその家族の約150名が集合し、チームに分かれて清掃活動を行いました。GSWでは、今後も地域の環境保全に貢献していきます。



■シンガポールのSeiko Instruments Singapore Pte. Ltd.では環境月間にあわせて12月21日に、Woodlands Water Front公園にて「Keep the Park Clean Activity」を開催し、26名の社員が参加しました。この活動は地域への貢献の他、社員が環境保全に携わり、クリーン&グリーン(きれいで緑を豊かにする)ことを身に付けることも目的にしています。



# SIIの環境ビジョン

2017年、SIIは創立80年を機に、これからのSIIの環境経営を見据えた「環境ビジョン」を策定しました。

これは、自然との共生、低炭素、循環型が達成された持続可能な社会であることを基本に、SIIが目指す方向性を示したものです。

SIIは腕時計メーカーとして創業し、コーポレート・アイデンティティとして「時を創り、時を活かし、時を豊かに」を掲げています。「時」に携わる企業として、SIIが目指す持続可能な社会とは、「地球と人に豊かな時を」としました。これは地球と人が「豊かな時」を享受できていることであり、それが将来にわたることを願っています。将来にわたる「時」は持続可能性をも表しています。

この環境ビジョンの達成にはイノベーションが不可欠です。これまでの延長ではなし得ないことですが、SIIはこれまでもイノベーションを起こすことでクォーツウオッチ実現への技術革新を先導し、時計製造で培った「匠・小・省」の技術を活かしながら事業を展開してきました。

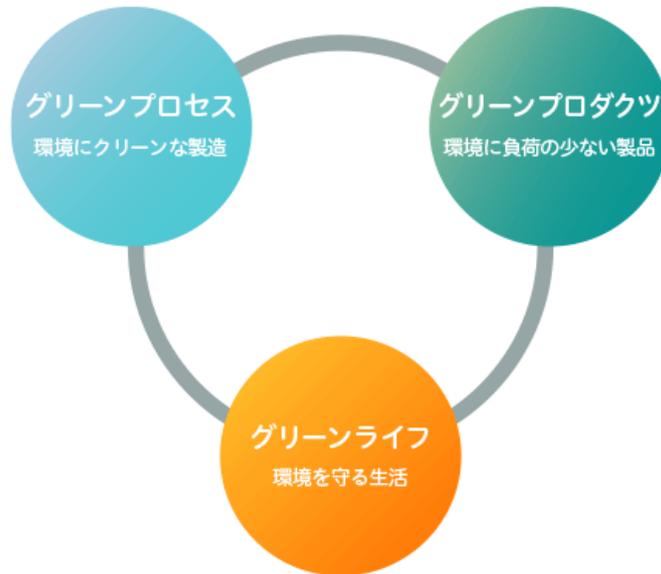
これからも「匠・小・省」の技術でイノベーションを追求し、持続可能な豊かな時の実現を目指します。



# グリーンプラン・環境方針

## グリーンプラン

SIIグループでは3つのグリーン「グリーンプロセス・グリーンプロダクツ・グリーンライフ」を基本コンセプトとするグリーンプランを策定し環境経営を実践しています。



### ■ SII グループ環境方針 2017年1月改定

#### ■ 環境理念

SIIグループは、企業活動と地球環境との調和をめざし、3つのグリーン「グリーンプロセス・グリーンプロダクツ・グリーンライフ」を基本コンセプトとし、環境活動に取り組み、全ての生命と共生できる持続可能な社会の実現に貢献します。

#### ■ 環境活動指針

1. 環境マネジメントシステムと環境パフォーマンスを継続的に改善しながら、社会の要請に応えた先進的な活動に努め、ステークホルダー価値の向上を図ります。
2. 法令及びその他の義務の遵守はもとより、環境リスクの低減と汚染の予防に努めます。
3. 「匠・小・省」※1の技術を礎に、以下を重点項目として取り組みます。
  1. ライフサイクルにわたって環境に配慮し、加えて環境保全に貢献できる製品・サービスを提供します。
  2. 環境に配慮した効率的なものづくりを積極的に推進します。
  3. 全ての企業活動において省エネルギーを徹底し、地球温暖化防止に努めます。
  4. 資源の有限性と貴重さを認識し、地球資源の責任ある利用を図ります。
  5. 化学物質によるリスクを低減させると共に、有害物質の排除を推進します。
4. グリーン購入を推進すると共に、製品含有化学物質の適切な管理を徹底します。
5. 生物多様性への影響とその恩恵を認識し、生物多様性の保全に努めます。
6. 社員の環境意識の向上を図り、一人ひとりが身近な生活においても環境保全に努めます。
7. 環境に関する社会貢献と説明責任を果たしながら、社会とのコミュニケーションを推進します。
8. サプライヤーの皆さまにも、本方針にご協力いただくよう推進します。

※1「匠・小・省」:SIIの技術理念

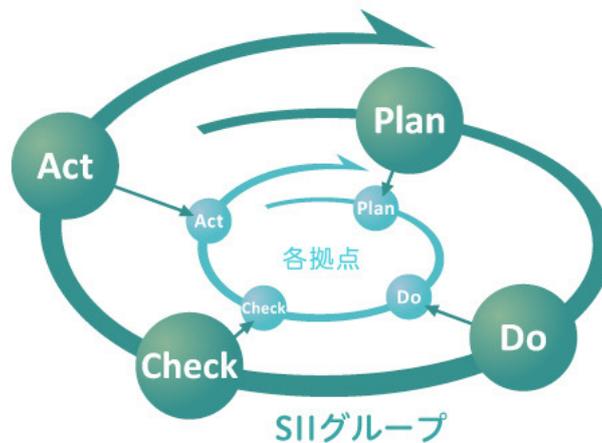
# 環境マネジメント

## 環境マネジメントシステム

SIIは、グループ全体として、また各拠点においても国際規格ISO14001に則った環境マネジメントシステムを構築し、PDCAのマネジメントサイクルを確実に回すことで環境パフォーマンスの向上に努めています。

「SIIグループ環境方針」に基づき、環境活動における中期目標や年度目標を策定し、これらの目標は各拠点の環境マネジメントシステムによって展開されます。

その活動実績は定期的に本社の環境経営推進部へ報告され、環境経営推進部では全グループを統括した環境マネジメントシステムを運用しています。

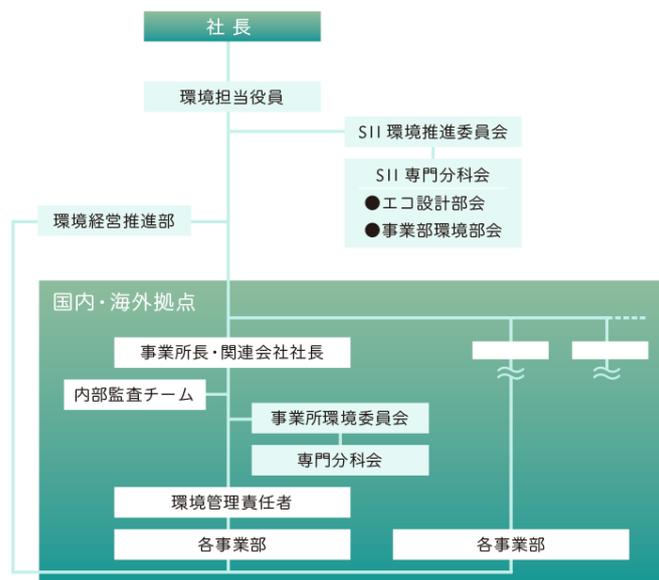


## 環境経営推進体制

SIIでは、社長のもと、環境担当役員を最高責任者として、SIIグループの環境マネジメントの推進体制を構築しています。拠点単位と事業部門単位の2つの体制を備え、各々の課題に応じた取り組みを、環境経営推進部が事務局となり、各拠点や事業部門と協力しながら推進しています。

SII環境推進委員会では、SIIグループの目的・目標の審議、各拠点からの活動報告や情報交換を行い、全グループで環境活動を着実に推進していくことを確認しています。

2017年度の委員会では、2016年度のテーマであった「水リスク」のレビューと、2018年度の各拠点における重点施策について情報共有しました。



# 環境配慮・貢献製品

## グリーンプロダクツの進化 – 環境に配慮した製品・貢献する製品 –

SIIでは3つのグリーン「グリーンプロセス・グリーンプロダクツ・グリーンライフ」を環境経営の基本コンセプトにしています。

中でも、グリーンプロダクツ、すなわち環境に配慮し、また貢献できる製品を創出していくことはメーカーの使命だと考え、SIIの技術理念である「匠・小・省」をベースに、環境に配慮した製品・貢献する製品を提供しています。

### SIIグリーン商品

SIIでは、2001年12月に「SIIグリーン商品ラベル」制度を導入、2006年10月には「SIIハイグレードグリーン商品ラベル」制度を導入し、製品自体の環境性能を確実に向上させてきました。

### グリーンプロダクツplus

製品自体の環境性能の向上に加えて、「SIIの製品が組み込まれることでお客様の製品の環境性能を向上できる」、また「人々が生活する環境の保全に貢献できる」、というこの考え方を「グリーンプロダクツplus」と名付け、製品やサービスの提供に注力しています。

### 提供範囲の拡大

–ソフトウェア・サービス–

これまでのハード製品（機器、部品等）での運用に加えて、新たにソフトウェア・サービスにもグリーン商品ラベル制度の運用を開始しました。



### SIIの製品を支える「匠・小・省」の技術

SIIの技術理念

「匠」：一歩進んだものを、「小」：ミニマムサイズで、

「省」：環境にやさしく創ること。

これを"SYO"ismとして表しています。

# 地球温暖化防止

## 地球温暖化対策の考え方

2015年12月、パリ協定が採択され、2020年以降の地球温暖化対策に向けた世界的枠組みが決まり、すべての国が目標値を定めて取り組んでいくことが約束されました。地球温暖化問題の解決に、企業が果たすべき役割や責任はますます大きくなっているといえます。

SIIは、メーカーとして、ものづくりの現場での省エネ活動はもとより、SIIが提供する製品・サービスにいたるまで、全事業活動を通じて温室効果ガスの排出量削減に努めています。

## CO<sub>2</sub> 排出量の削減 2017年度の総括

2017年度の国内拠点におけるエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量は、目標の54,216トン-CO<sub>2</sub>※に対し55,901トン-CO<sub>2</sub>となり、目標を達成できませんでした。また、前年度との比較では、1.0%にあたる566トンの増加となりました。原因は生産増によるものです。一方で、高効率設備の導入や生産設備の効率的な運用、照明器具のLED化など、継続的な省エネルギー活動に努めました。海外拠点における2017年度のエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量は、34,696トン-CO<sub>2</sub>で前年度比で3.7%削減しました。こちらも照明器具のLED化や、設備の効率的な運用、排熱の再利用などに努めました。

※2018年1月にSIIグループの連結対象から外れた半導体事業分を含んでいます。

# 資源循環

## 資源有効活用の考え方

資源の枯渇は企業経営に重大な影響を及ぼします。SIIは、資源を利用し製品やサービスを提供するメーカーとして、限りある資源の有効活用を図ることは極めて重要な責務と考えています。

循環型社会の形成に向けて、事業活動のあらゆる場面で資源の有効利用に努めています。

## 2017年度の総括

### ■ 廃棄物

2017年度の国内拠点における再資源化率の実績は92%で、90%以上という目標を達成できました。また、廃棄物総発生量は2,183※トンで、昨年度より3%増加しました。これは、生産増が影響しています。海外拠点の再資源化率は71%と、昨年度より向上しましたが、廃棄物総発生量は2,252トンで前年度の実績よりもやや増加しました。

※2018年1月にSIIグループの連結対象から外れた半導体事業分を含んでいます。

### ■ 水使用量

SIIでは、水は貴重な自然資本であるという認識のもと、水資源の3Rに取り組んでいます。水使用量の削減とともに、製造工程で使用した水は可能な限り再利用しています。2017年度の国内拠点における水使用量は568千m<sup>3</sup>※で、前年度より25千m<sup>3</sup>増加する結果となりました。これは、生産増によるものです。海外拠点の水使用量は342千m<sup>3</sup>で前年度より19千m<sup>3</sup>削減しました。

※2018年1月にSIIグループの連結対象から外れた半導体事業分を含んでいます。

# 生物多様性保全

## 生物多様性保全の考え方

SIIは、生態系サービスからの恩恵を受けている企業として、生物多様性の保全は、本業においても取り組むべき環境経営の重要課題だと考えています。

SIIでは生物多様性の保全に取り組むにあたり2011年4月に生物多様性行動指針を策定し、具体的な取り組みを開始しました。

## 2017年度の総括

「SIIグループ生物多様性土地利用ガイドライン」に基づく取り組みの第IIステージと位置づけ、各拠点では、巣箱の設置やいきもの調査など事業所の特性を活かした具体的な取り組みが進みました。

## 土地利用評価と自然観察会

盛岡セイコー工業(株)では、2012年より生物多様性の観点からみた土地利用状況の評価を継続的に実施しています。「一般社団法人 企業と生物多様性イニシアティブ (JBIB)」が開発した『いきもの共生事業所®推進ガイドライン』に基づき、社外の専門家にもご参加・助言をいただきながら取り組んでいます。2015年からは、土地利用評価に加え、事業所敷地にて自然観察会を開催しています。2017年度は、樹林地を将来にわたり健全な形で残していくために、「樹林の維持管理」をテーマに自然観察会を実施しました。

盛岡セイコー工業(株)は2015年2月に一般社団法人いきもの共生事業推進協議会 (ABINC)が運営する「いきもの共生事業所®認証(通称:ABINC認証)制度」において、工場版認証としては第一号となる認証を取得しました。その後、2016年10月にはABINCが創設した表彰制度「ABINC賞」にて特別賞を受賞し、2018年1月には、ABINC認証を更新しました。



# 化学物質管理

## 化学物質管理の考え方

化学物質を正しく安全に管理していくことは、企業の責任であり、リスクマネジメントの上でも重要だと考えます。SIIの国内拠点では製造工程で使用する化学物質の中で、PRTR※法対象物質に加えSIIで独自に指定した自主管理物質(23物質)とVOC(揮発性有機化合物:100物質)を排出量削減の管理対象としています。

※ PRTR(Pollutant Release and Transfer Register 化学物質排出移動量届出制度) 化学物質の取扱量、環境中への排出量、廃棄物に含まれて事業所外へ移動する量などを把握・集計し、公表する制度。企業はこの制度の対象となる化学物質について集計し、行政機関に年に1回届け出る。

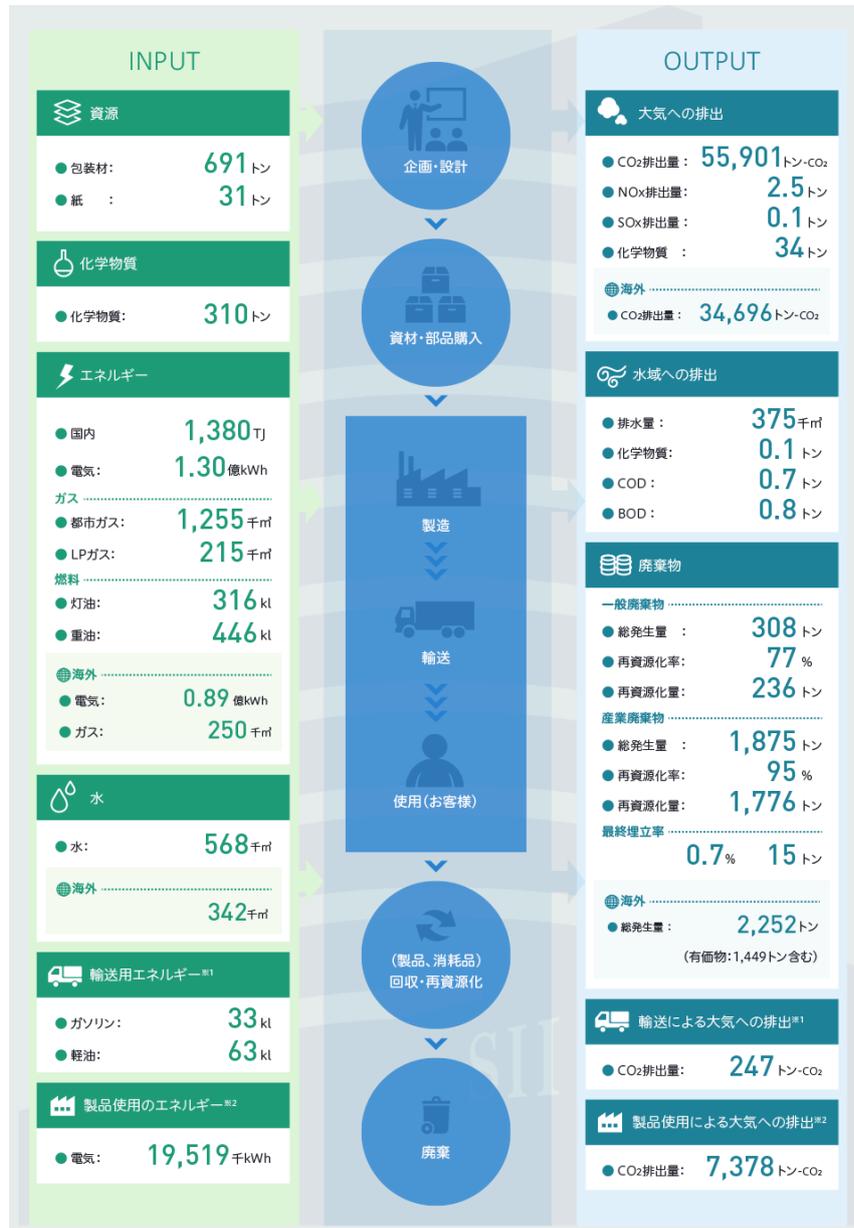
## 管理対象物質排出量の削減 2017年度の総括

2017年度の製造工程におけるSIIが定めた管理対象物質の排出量は34.6※トンで、前年度実績より約1トン増加しました。また、PRTR法対象物質の取扱量は106.6トンでした。

※2018年1月にSIIグループの連結対象から外れた半導体事業分を含んでいます。

# 事業活動と環境負荷

SIIグループは、環境負荷を製品のライフサイクルを通して的確に把握していくことは環境活動の基本だと考えています。2017年度の環境負荷の概要は次の通りです。



INPUT	
包装材	: 容器包装リサイクル法の対象となる紙・プラスチック
紙	: 社内で使用するコピー用紙、プリンター用紙
化学物質	: PRTR対象物質とHFC類、PFC類、SF <sub>6</sub> 、NF <sub>3</sub> 、VOC
電気	: 電力会社からの購入電力
ガス	: 都市ガス、LPガス
燃料	: 灯油、重油、軽油
水	: 上水道、工業用水、地下水

OUTPUT	
CO <sub>2</sub>	: 電気、ガス、油、冷温水などの使用により発生する二酸化炭素
NO <sub>x</sub>	: ガス、油などの使用により発生する窒素酸化物
SO <sub>x</sub>	: 油などの使用により発生する硫黄酸化物 ※ NO <sub>x</sub> 、SO <sub>x</sub> は大気汚染防止法で規制されるばい煙発生施設を設置している事業所に限定
化学物質	: PRTR対象物質とHFC類、PFC類、SF <sub>6</sub> 、NF <sub>3</sub> 、VOCの大気・水域への排出量
排水	: 河川、下水道への排水
COD	: 汚濁負荷量 ※ 水質汚濁防止法の総量規制対象事業所に限定
BOD	: 汚濁負荷量 ※ 水質汚濁防止法の特定施設設置事業所に限定
一般廃棄物	: 事業活動に伴い発生する廃棄物のうち、紙ゴミ、生ごみなど
産業廃棄物	: 事業活動に伴い発生する廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラ、燃え殻、汚泥など
最終埋立率	: 廃棄物総発生量に対する最終埋立処分量の比率

※1:輸送:国内のSIIグループ間の輸送のみを対象

※2:使用:2017年度までのSIIグリーン商品認定品を対象に1年間の使用で推計。一部の製品については、算出方法の見直しを実施。製品使用時の定義をより実態に近づけた。

# CSR活動の目標と実績

2017年度の主な活動実績は以下のとおりです。

2017年度実績の評価は ◎：目標以上に達成 ○：ほぼ達成～達成 △：達成度70%以下 —：評価対象外

## ■ コンプライアンス

2017年度目標	2017年度実績	評価	2018年度目標
オンライン形式のコンプライアンスクイズの継続実施（毎日実施・年1回定例実施）	『今日のコンプライアンス博士の言葉・一問』：ほぼ毎日更新 コンプライアンスクイズ 実施時期： 2017年12月14日～2018年2月2日 回答者数：2,665名／91.9%	○	『今日のコンプライアンス博士の言葉・一問』は可能な限り毎日実施  コンプライアンスクイズは、年1回実施
経営幹部へのコンプライアンス意識啓発活動の継続実施（2、3か月に1回）	以下の日程で実施 ・2017/6 ・2017/8 ・2017/10 ※第4四半期は実施なし	○	四半期に1回実施
コンプライアンス意識調査の継続実施（年1回定例実施）	実施時期： 2017年6月19日～7月31日 回答者数：3,306名／88.54%	○	年1回実施

●通報・相談件数：**5**件

## ■ リスクマネジメント

2017年度目標	2017年度実績	評価	2018年度目標
全社リスクマネジメント活動の継続・推進	重要リスクの評価・管理のPDCA実施（計32件についてリスク対策を実施）	○	全社リスクマネジメント活動の継続・推進

## ■ 知的財産

●特許保有件数： 国内 **1,779**件 海外 **1,536**件

## ■ お客様満足

2017年度目標	2017年度実績	評価	2018年度目標
お客様満足度向上への継続的取り組み	継続的に実施	○	お客様満足度向上への継続的取り組み

## ■ 品質管理・製品安全

2017年度目標	2017年度実績	評価	2018年度目標
製品安全点検：18回実施	11回実施 ※対象製品が少なかつたため	○	7回
製品安全： ワーキンググループ7回開催	会議としては1回開催 その他の活動として「機械設備製造・導入安全ガイドライン」を完成させた。	○	活動計画無し
業務プロセス点検： 10部門※で実施 ※当初は16部門としていたが対象部門再編により変更した	10部門実施	○	13部門で実施

## ユニバーサルデザイン

2017年度目標	2017年度実績	評価	2018年度目標
GREENDESIGN SPIRITS10 ※の啓発、点検及び、チェックの継続	SPIRITS10 の継続提唱 デザイン対象製品の自己評価実施。考え方の点検深化を図った。	○	SPIRITS10 の啓蒙、点検及びチェックの継続

※SIIの「デザインへの想い」を10個のキーワードに凝縮し、デザイン理念としてまとめたもの

## 人権尊重

2017年度目標	2017年度実績	評価	2018年度目標
全海外拠点にて『人間尊重の精神』の周知徹底の実績を検証する。	全拠点での周知徹底の実績を確認した。	◎	社員への周知をルール化し、本社の人事部門が各拠点を回り、確認する。
全海外拠点にて「行動ガイドライン」の周知徹底を行う。	タイを除き、周知徹底を行った。	○	社員への周知をルール化し、本社の人事部門が各拠点を回り、確認する。

●育児休職利用実績：**18**名 育児短時間勤務利用実績：**27**名

## 安全と健康

2017年度目標	2017年度実績	評価	2018年度目標
SII グループ総合安全点検（自主点検）： ・国内全拠点と海外製造拠点にて実施 －自主点検実施後に現地確認を実施	SII グループ総合安全点検（自主点検）： 国内全拠点と海外製造拠点にて実施 －自主点検実施後の現地確認は継続中	○	SII グループ総合安全点検（自主点検）： 国内全拠点と海外製造拠点にて実施 －2017年度の現地確認を引き続き実施
救命講習：国内各拠点で実施	救命講習：国内各拠点で実施（197名受講）	○	救命講習：国内各拠点で実施
特定健康診断受診率：90%	84.6%（2018年7月時点の見込み値）	○	特定健康診断受診率：86%

## 社会との共存

2017年度目標	2017年度実績	評価	2018年度目標
各拠点で地域貢献を継続的に実施	地域清掃、献血、寄付、植栽活動などを実施	○	各拠点で地域貢献を継続的に実施
各拠点で体験学習、インターンシップなどの受け入れを継続的に実施	体験学習、インターンシップなどの受け入れを実施	○	各拠点で体験学習、インターンシップなどの受け入れを継続的に実施

## 公正・誠実な購買活動

2017年度目標	2017年度実績	評価	2018年度目標
バイヤー教育実施	●バイヤー教育実施 149名 ●調達イントラ教育実施 68名	◎	●バイヤー教育実施 ●調達イントラ教育実施
サプライヤー認定制度の継続実施、管理レベルの維持 / 向上	継続的に実施	○	サプライヤー認定制度の継続実施、制度見直し

## ■ 環境配慮型製品の創出

2017年度目標		2017年度実績	評価	2018年度目標
SII グリーン商品の売上比率の向上	98%以上	98.3%	◎	SII 全体 98%以上に維持
SII ハイグレードグリーン商品の創出数向上	創出数 3 製品以上	7 製品	◎	2 製品以上

## ■ 製品含有化学物質

2017年度目標		2017年度実績	評価	2018年度目標
製品へのカドミウム、六価クロム、水銀、鉛の非含有	非含有を 95%以上に維持 ※ 1	98.0%	◎	非含有を 95%以上に維持 ※ 1
製品へのポリ塩化ビニルの非含有	非含有を 95%以上に維持 ※ 2	96.0%	◎	《新規設定》 製品へのフタル酸エステル類の非含有を 95%以上に する※ 3

※1 EU圏向け製品は2006年5月末に全廃達成しました。

※2 安全規格上で使用するものや代替が困難なものは除きます。

※3 フタル酸エステル類:DEHP, BBP, DBP, DIBP非含有の目標管理対象は海外向けに出荷する製品とします。

## ■ 地球温暖化防止

2017年度目標		2017年度実績	評価	2018年度目標
エネルギー起源の CO <sub>2</sub> 排出量の削減	(国内拠点) 原単位 1%以上向上 総量: 54,216 トン -CO <sub>2</sub>	総量: 55,901 トン -CO <sub>2</sub> 前年度比 +1.0%	○	原単位 1%以上向上 総量: 53,562 トン -CO <sub>2</sub> 2020 年度末までに 1990 年度比 25%削減
	(海外拠点) 拠点ごとに 前年度比 1%削減	総量: 34,696 トン -CO <sub>2</sub> 前年度比 -3.7%	—	拠点ごとに 前年度比 1%削減

## ■ 資源循環

2017年度目標		2017年度実績	評価	2018年度目標
廃棄物の再資源化率の向上	(国内拠点) 90%以上維持	92%	○	90%以上維持
	(海外拠点) 拠点ごとに前年度比 3 ポイント向上	71%	—	拠点ごとに前年度比 3 ポイント向上
水使用量の削減	(国内拠点) 維持管理	568 千 m <sup>3</sup> 前年度比 +5%	—	維持管理
	(海外拠点) 拠点ごとに前年度比 1%削減	342 千 m <sup>3</sup> 前年度比 -5%	—	拠点ごとに前年度比 1%削減
事務用紙使用量の削減	(海外拠点) 拠点ごとに前年度比 3%削減	18 トン 前年度比 -8%	—	拠点ごとに前年度比 3%削減

## ■ 化学物質管理

2017年度目標		2017年度実績	評価	2018年度目標
化学物質※の排出量の削減	(国内拠点) 前年度比 <b>+5%</b> 以下に維持	<b>35</b> トン 前年度比 <b>+3%</b>		(国内拠点) 前年度比 <b>+5%</b> 以下に維持

※ここではSIIの管理対象物質である、PRTR法対象物質、HFC類、PFC類、SF<sub>6</sub>、NF<sub>3</sub>、VOCをさします。

## ■ 生物多様性保全

2017年度目標	2017年度実績	評価	2018年度目標
土地利用状況の評価継続	盛岡セイコー工業にて 土地利用状況の評価 を継続実施、自然観 察会の実施		土地利用状況の評価継続
	SII 生物多様性土地利 用ガイドライン第 2 ス テージ終了		SII 生物多様性土地利用ガイ ドライン第 3 ステージ終了

- 千葉県内の3事業所で千葉県の「ヒメコマツ系統保存サポーター」の継続。育成状況の監視と千葉県に定期報告を行う。
- 大野事業所で市川市の「生物多様性モニタリング調査員」の継続。指標生物のモニタリングを実施。



セイコーインスツル株式会社  
環境経営推進部

千葉県千葉市美浜区中瀬1-8 〒261-8507

電話番号：043-211-1111 (代表)  
043-211-1149 (直通)

ファクシミリ：043-211-8019

<http://www.sii.co.jp/eco/>